

平成 29 年（2017 年）8 月前半の北・東日本太平洋側の不順な天候
及び沖縄・奄美の高温について

- ・北日本太平洋側では日照不足と低温、東日本太平洋側では日照不足となっています。このような不順な天候は、7 月末に出現したオホーツク海高気圧に伴う北東からの冷たい気流が持続していることが影響しています。
- ・沖縄・奄美では高温となっています。これには、太平洋高気圧が平年と比べて日本の南海上で強いことが影響しています。
- ・今後一週間は、北・東日本太平洋側では曇りや雨の日が多く、北日本太平洋側は気温の低い状態が続き、沖縄・奄美では晴れる日が多く、気温の高い状態が続く見込みです。その後 8 月下旬後半は、北日本太平洋側の低温は解消する見込みです。

1．北・東日本太平洋側の不順な天候

8 月前半は、北日本太平洋側では日照不足かつ低温、東日本太平洋側では日照不足となっています。このような不順な天候は、平年にはみられないオホーツク海高気圧が 7 月末に出現し、それに伴う北東からの冷たく湿った気流が 8 月前半を通して持続していることが影響しています。オホーツク海高気圧が持続している要因として、オホーツク海上空のブロッキング高気圧が持続していることが考えられます。

2．沖縄・奄美の高温

一方、沖縄・奄美では高温が持続しています。このような天候は、太平洋高気圧が平年と比べて日本の南海上で強く、日照時間が多いこと、下降流が強まり昇温したこと、太平洋高気圧の縁辺に沿った西寄りの暖かい気流が流れ込んだことが影響しています。太平洋高気圧が日本の南海上で強いことの要因として、フィリピン周辺で対流活動が不活発であることが考えられます。

3．今後の見通し

今後一週間は、北・東日本太平洋側では、気圧の谷や湿った東寄りの風の影響で、曇りや雨の日が多く、北日本太平洋側は、気温の低い状態が続く見込みです。引き続き農作物の管理に十分注意してください。沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多く、気温の高い状態が続く見込みです。熱中症の危険が高まりますので健康管理に十分注意してください。

その後、8 月下旬後半は、北日本太平洋側の低温は解消する見込みです。沖縄・奄美では気温の高い状態が続くでしょう。

本件に関する問い合わせ先：

気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課 （代表）03-3212-8341（内線）3158

1. 天候の状況 (図1、表1)

8月前半は、北・東日本太平洋側で曇りや雨の日が多くなり、日照時間が少なく、北日本中心に平均気温も低い状態が続きました。特に北日本太平洋側では、8月1日～16日の日照時間は平年比42% (8月の月間日照時間の最も少ない記録は1998年の平年比58%)、平均気温は平年差-1.9 (8月の月平均気温の最も低い記録は1980年の平年差-3.6) となっており、顕著な日照不足となっています。

また、西日本から沖縄・奄美では、平年に比べて平均気温が高い状態が続きました。特に沖縄・奄美においては、8月1日～16日の平均気温は平年差+1.5 (8月の月平均気温の最も高い記録は1998年の+1.2) となっており、顕著な高温となっています。

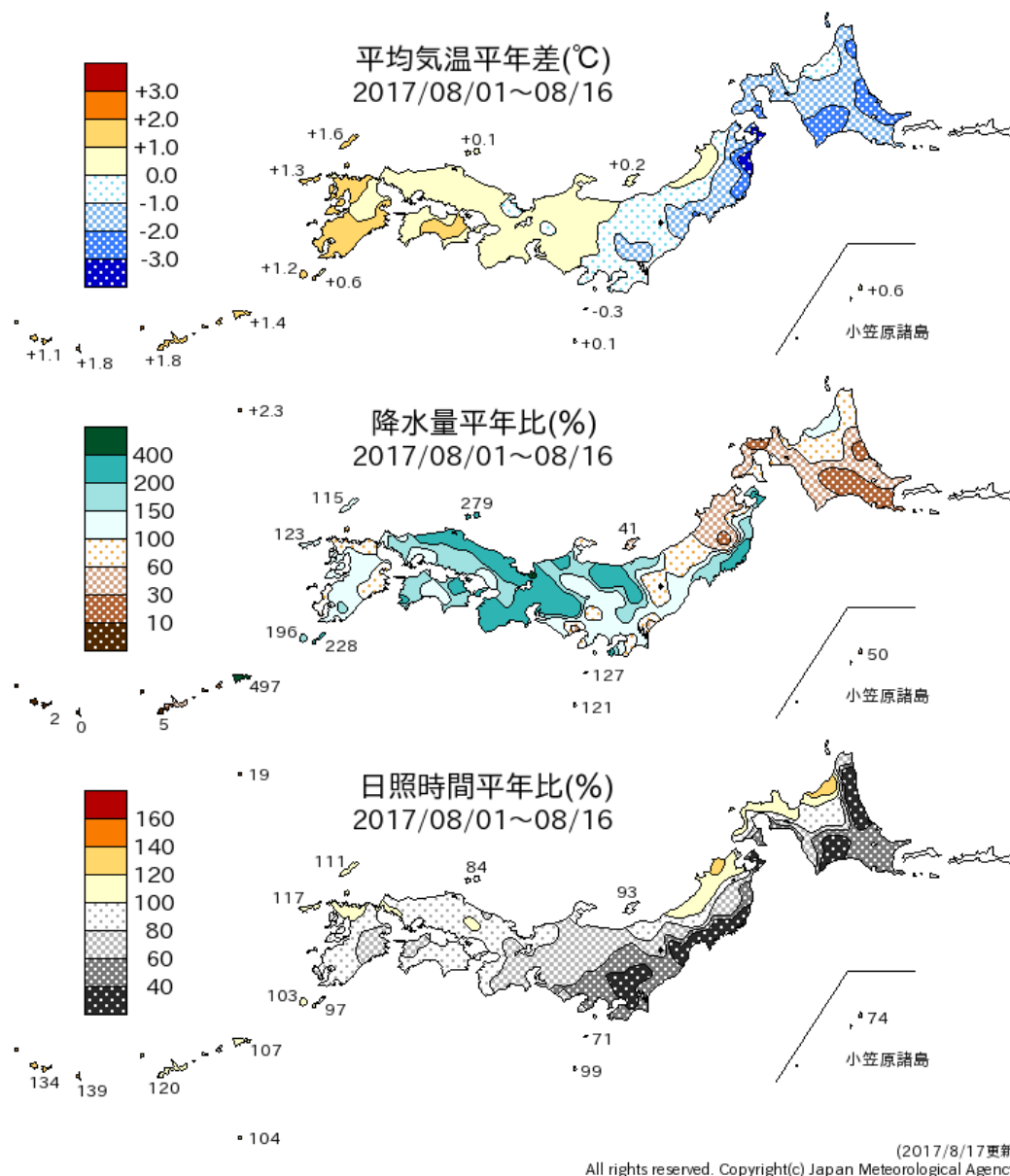


図1 2017年8月1日～16日の気温平年差、降水量・日照時間平年比の分布
平年値は1981～2010年の平均値。

表1 2017年8月1日～16日の平均気温平年差及び日照時間平年比

		平均気温平年差 ()	日照時間平年比 (%)
北日本	日本海側	-0.8	97
	太平洋側	-1.9	42
東日本	日本海側	+0.1	84
	太平洋側	-0.2	57
西日本	日本海側	+0.8	91
	太平洋側	+0.8	88
沖縄・奄美		+1.5	118

2. 大気の流れの特徴 (図2、図3)

(1)北・東日本太平洋側の不順な天候に関連する大気の流れの特徴

7月末にオホーツク海高気圧が出現し、8月前半を通して持続しています。このオホーツク海高気圧の持続に伴い、北東からの冷たい気流が北日本から東日本の太平洋側に流れ込む状態が続いています。また、8月上旬には台風第5号が和歌山県北部に上陸しました。その後、日本付近で上空の偏西風は平年の位置よりも南に偏って流れ、太平洋高気圧の本州付近への張り出しも平年と比べて弱いことから、本州付近は低気圧がたびたび発生し通過しました。このような大気の流れの特徴に伴い、北・東日本太平洋側では曇りや雨の日が多くなりました。

オホーツク海高気圧が持続している要因としては、上空の偏西風の蛇行に伴って、オホーツク海上空でブロッキング高気圧が発達し、持続していることが一因とみられます。

(2)沖縄・奄美の高温に関連する大気の流れの特徴

8月前半の期間を通して、太平洋高気圧は平年と比べて本州付近への張り出しが弱く、日本の南海上で強い状態が続いています。このような大気の流れの特徴に伴い、沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて日照時間が多くなるとともに、下降流の強まりによる断熱加熱による昇温、そして、太平洋高気圧の縁辺に沿った西からの暖かい気流により、顕著な高温となっています。なお、上空のチベット高気圧が、平年と比べて南側となる沖縄・奄美方面に張り出していたことも、高温に寄与していた可能性があります。

太平洋高気圧が平年と比べて日本の南海上で強い状態が続いている要因としては、フィリピン周辺で積乱雲の発生が少なく、対流活動が不活発であることが一因とみられます。フィリピン周辺の対流活動が不活発であることについては、熱帯大気の季節内振動による影響が考えられます。

3. 今後の見通し

今後一週間は、北・東日本太平洋側では、気圧の谷や湿った東寄りの風の影響で、曇りや雨の日が多く、北日本太平洋側は、気温の低い状態が続く見込みです。引き続き農作物の管理に十分注意してください。沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多く、気温の高い状態が続く見込みです。熱中症の危険が高まりますので健康管理に十分注意してください。

その後、8月下旬後半は、北日本太平洋側の低温は解消する見込みです。沖縄・奄美では気温の高い状態が続くでしょう。

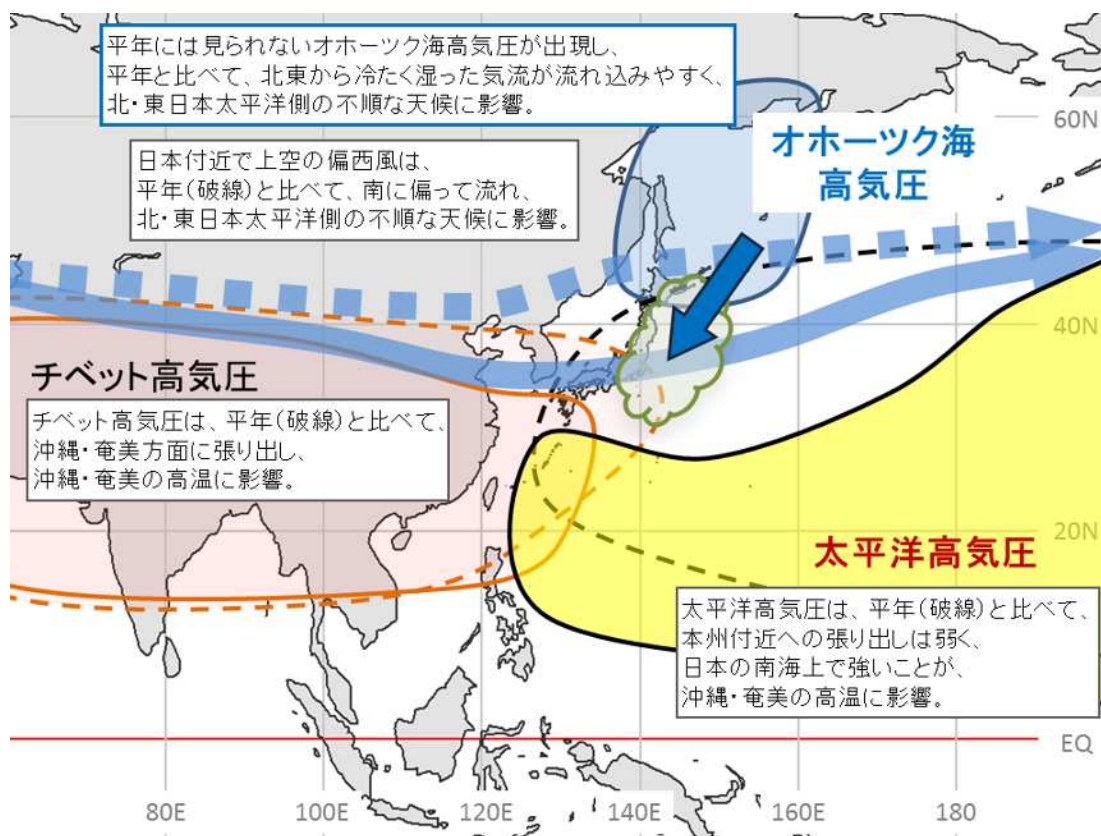


図2 2017年8月前半の北・東日本太平洋側の不順な天候及び沖縄・奄美の高温に関連する大気の流れの模式図

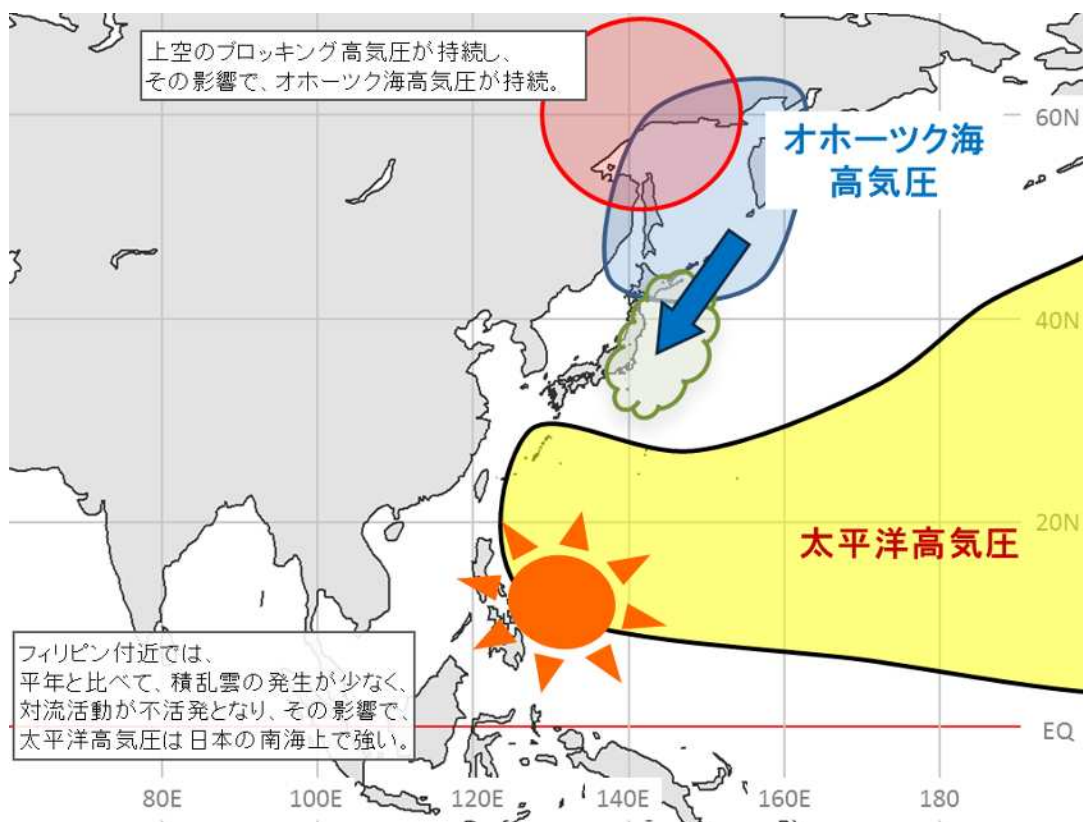


図3 2017年8月前半のオホーツク海高気圧の持続及び太平洋高気圧が南海上で強いことの要因に関する模式図